6/30号 ©新潮社 2011

# 週刊新潮

■表紙絵「傘」
成瀬政博（表紙のはなし）…102

## 原発対応「スポークスマン」愛の日々
## 経産省「美人職員」を弄ぶ「西山審議官」

――6月17日深夜、西山審議官は都心ホテルのバーで妙齢の女性と密会していた。店を出て手をつなぎ、嫌がる素振りの彼女にキスを迫る。実は、彼女との不倫が始まって1年が経過していた。危急存亡の時にも愛人と大人の関係を続けるスポークスマンの裏の顔。 …26

生臭い「お遍路」宰相の悪あがき 憎悪に燃える民主党執行部 …30

## 被災地は眼中にない「赤絨毯の私闘」全内幕

## 放射能版「人権団体」から解任要求された福島県「放射線アドバイザー」 136

「菅政権」どの面下げて安全宣言！ マッチポンプと世間が嗤う！ …34

## 全ての「原子力発電所」停止で日本の明日

## 東日本を復興させる目からウロコの7つのアイディア

▼原則無料の復興オークション▼津波より高い人工地盤都市▼藻で石油プラント▼菜の花畑が塩害を救う 50

## ワイド 欲望という名の電車 42

❶契約金は大リーガー並みでも元が取れる「チャン・グンソク」
❷「伊集院光」と「岡村隆史」が異論を唱えたAKB総選挙
❸いつの間にか八百屋のオヤジが本業という「永島敏行」
❹天才が王様になった「松本人志」目を覆う「さや侍」興行成績
❺反「幸福の科学学園」の幟350本がはためく琵琶湖のほとり
❻5億円の離婚調停「片山晋呉」はブルガリのアプローチショット
❼ふたり子「菊池麻衣子」の名義が使われたインサイダー取引
❽朝日新聞に全面広告3回で「吉川×布袋」そんなに儲かるか

## 喜寿になったエースのジョー

## 九死に一生のドラマ！ フェリーから転落！ 水没携帯で118番に通じた「カナヅチ男」の強運 140

## 宍戸錠が語る「義理の妹」ちあきなおみ」との19年の断絶

――「ちあきなおみ」が亡夫、郷鍈治の葬儀で「一緒に火葬して」と叫んだのは1992年。以来19年間、彼女は表舞台から姿を消した。「エースのジョー」が2人の馴れ初めから断絶の発端までを告白した。 …54

### コラム

あとの祭り …渡辺淳一 56
日本ルネッサンス …櫻井よしこ 142
変見自在 …高山正之 144
おれのゴルフ …青木 功 118
オモロマンティックボム！ …川上未映子 61
問題だらけの「日本史教科書」再読ドリル …小島 毅 97
TVふうーん録 …吉田 潮 67
サイエンス宅配便 …竹内 薫 63
明治めちゃくちゃ物語 …野口武彦 64
がんの練習帳 …中川恵一 66
世間の値打ち …福田和也 116
窓際OLのすってんころりん日記 …斎藤由香 70
なんだかなァ人生 …柳沢きみお 106
ブルーアイランド氏のクラシック漂流記 …青島広志 113
セレブゴシップ天国ときどき地獄 …関 陽子 114
気になる一手 …中原誠・小川誠子 72
私の週間食卓日記 …マリオ・カテロ 104
大人のマンガ 読むマンガ …73
B級重大ニュース …57

### 小説

村上海賊の娘 …和田 竜 90
途方もなく儚は流れる【最終回】 …唯川 恵 74
けさくしゃ …畠中 恵 98
黒い報告書 …藤水名子 109

■新々句歌歳時記（嵐山光三郎・衷方包）…95
■TV視聴室…123 ■結婚…120 ■墓碑銘…121 ■掲示板…80

### グラビア

管見妄語（藤原正彦）…22
週刊鳥頭ニュース（佐藤優・西原理恵子）…166
おちょクリック！ …154
優越感具現化カタログ …161
中年弁当男子 …162
一歩先行くもてなしの宿 …164

### テンポ

■ロビー／ビジネス／インシデント／オーバーシーズ…37
■マイオンリー 幸田浩子 …41
■ガイド／アーツ …124
■ブックス BOOK OF THE WEEK 大森 望 …126
■エンターテインメント／スポーツ …129
■スクリーン 北川れい子 …132
■タウン …134

■週刊新潮メールアドレス：shuukan@shinchosha.co.jp
■表紙アート・ディレクション／三谷一郎 ■グラビア・デザイン／新美 稔（BOP） ■本文デザイン／伊藤晴夫・広瀬 潤 ■カット／峰村勝子

# 落！水没携帯で「ヅチ男」の強運［特集］

当日のケータイは修理中（今谷氏）、右はたかまつ丸

これぞ、まさしく九死に一生のドラマという他ない。

6月18日午前8時45分、宇高国道フェリー『たかまつ丸』は岡山県玉野市の宇野港に向け、香川県の高松港を出航した。

そのわずか26分後、第六管区海上保安本部に〝118番〟の緊急通報が入った。海保の職員もさぞや驚いたに違いない。なにしろ、通報してきたのは、たかまつ丸から海に転落した乗客本人だったのだから――。

その乗客とは、高松市在住のトラック運転手、今谷勘也氏（42）だった。

今谷氏が恐怖体験をこう振り返る。

「その日、岡山に買い物に行こうとひとりでフェリーに乗りました。ぼくは、船酔いしやすい性質で、すぐに気持ち悪くなってしまった。人目に付かないフェリーの後ろの方に行き、1・2㍍くらいの柵に寄りかかって海に吐こうと……。そのとき、波で船が揺れたのか、弾みで足が滑り、柵を乗り越え、真っ逆さまに5㍍ほど下の海に落ちてしまったのです。一瞬、何が起きたのか分かりませんでした」

たかまつ丸は全長71・8㍍、幅14・7㍍で、定員488名の大型フェリー。

当日、乗船していたのは、34名の乗客と船長含め6名の乗組員だった。

しかし、今谷氏の転落には、誰も気づかなかった。

「必死に海面から顔を出すと、乗っていたフェリーがどんどん離れていくのが見えた。もうダメだとパニックになりました。もともと泳ぎは苦手で、友達とプールに行っても浮いているだけ。どうにか立ち泳ぎをしていると、ふと上着の右ポケットに携帯電話が入っていることを思い出した。海中から携帯電話を取り出してみたら、電源は切れてないし、アンテナも3本立っていました。もしかしたら繋がるかもしれないと祈るような気持ちで118番にかけたのです」

海における事件・事故の緊急連絡用として、118番は海上保安庁が00年から運用を開始していた。

「普段、フェリーに積まれてきたコンテナをトラックで運搬する仕事をしているので、118番のことは知っていました。電話はすぐに繋がった。携帯電話が濡れたせいか、相手の声がかすれて聞こえにくかったのですが、会話に問題はありませんでした」

波をかぶり、溺れそうになりながら、

「救助をお願いします」

と言うと、

「どうされましたか」

という返事。

「フェリーから転落しました」

「どちらのフェリーですか」

「高松から宇野行きの国道フェリーです」

「高松何時発でしょうか」

「8時45分です」

「船名は？」

「たかまつ丸」

「服装はどのようなものを？」

「黒と白のジャージ。あまり泳げないので、早く救助してください。霧がかかっているので、他の船がいるの

**泳ぎがからっきし苦手な「カナヅチ男」がフェリーから転落してしまった。何とか水面に浮かび上がると、船は遠ざかっていく。溺れそうになりながら、必死にポケットを探ると、そこには携帯電話……。一旦、水没したその携帯で118番通報すると、奇跡が起きた。**

# 九死に一生のドラマ！ フェリーから転 118番に通じた「カナ

かいないかも見えません」

「わかりました。無理にもがかず、身体の力を抜くようにしていてください」

直後、第六管区海上保安本部からの要請を受け、高松海上保安部などの巡視艇が現場に急行。さらに、たかまつ丸にも乗客転落の連絡がなされた。

その日の天候はくもりで、気温は22度。霧のため、視界は約1000㍍だったが、海が荒れていなかったことが幸運だった。

とはいえ、

「海水は凍えるほどに冷たく、途中、何度か意識が薄れかけました。おふくろに会いたいと思ったり、何分で助けに来るのだろう？まだかなまだかなと焦る気持ちもあった。でも、電話が通じたのだから誰かが助けに来てくれる、それだけを信じていた。周囲は霧が立ち込め、500㍍ほど先の赤いブイが確認できるだけだった。ところが、20分くらい経ったころ、霧のなかから、遠ざかっていったはずのフェリーが姿を現し、だんだん近づいてくるのが見えた。瞬間、これで助かるかもしれないと思いました」

## "防水携帯"ではない

そして、たかまつ丸は、高松市沖約8㌔にある女木島の西2㌔の海上を漂流している今谷氏を発見した。

「フェリーの船首にあるランプドア（車の乗降口）が開いて、そこから船員さんがロープ付きの浮き輪を投げてくれました。無我夢中でそれに掴まった。最初は、それに掴まっているだけだったんですが、船員さんが〝（浮き輪を）潜って、潜って！〟と大声を上げていた。死に物狂いで浮き輪を潜り、そのときにかなりの量の海水を飲んでしまったようで、ウッと吐き出しました。船員さんたちがぼくの浮き輪のロープを引っ張っていましたが、フェリーまでは手繰り寄せることができなかった」

すると、すぐさま船員の1人が海に飛び込んだ。

「フェリーからもう1つ、浮き輪が投げ込まれ、海中の船員さんがそれを潜った。2つの浮き輪が並んでいる状態で、船員さんがぼくの靴を脱がせてから、両膝の裏を抱きかかえて、身体が沈まないように支えてくれた。そして、〝大丈夫。よく頑張った〟と声を掛けられました」

2人で浮き輪に掴まっていると、10分くらいして、2隻の巡視艇が到着。

「ぼくは、ゴムボートに乗せられ、巡視艇に運ばれました。ガタガタと震えながら毛布に包まり、甲板に仰向けで寝ていた。空を見ながら、〝本当に生きているんだな〟と、ようやく救助された実感が湧いてきました」

海に転落してから約40分後の午前9時53分、今谷氏は奇跡の生還を果たしたのだった。

何にも増して、彼の命を救ったのが、携帯電話だったのは間違いない。肝心なその機種だが、ドコモの『P-01C』だった。色はメタルシルバー。

「今春に買い換えたばかりでした。テレビや新聞などでは、〝防水携帯〟で助かったみたいに報じられていますが、実は、防水ではないんですよ。118番通報できたのは、運が良かったとしか言いようがありません。ずっとパナソニック製を使っていましたけど、より一層、愛着を持つようになったので、今後も使い続けたいと思っていますよ」

パナソニックモバイルコミュニケーションズに聞くと、

「P-01Cは防水対応も生活防水対応もしておりません。真水ではなく、海水に没したということですと、所謂、防水試験よりもハードルが高かったと思われます。さまざまな条件が重なって、偶然、使用できたのかもしれません」（広報）

幸い、入院も1日だけで済み、強運の〝カナヅチ男〟は、すでにトラック運転手の仕事に復帰している。